

各種健診等のご案内

健診等の日程は p.28 町内イベントカレンダーをご覧ください。

町のホームページから
でも確認できます→



乳幼児健診 各種健康診査
各種事業

<注意>

- ・乳幼児健診と BCG 予防接種は対象者へ個別にご案内します。
- ・健診を希望する方は、健診日の 1 週間前までに健康推進係へ申し込みください。
- ・特定健診やがん検診は、町内イベントカレンダー以外の日程でも受けることができます。

急病時・夜間の相談先

■救急安心センターさっぽろ

24 時間・365 日、看護師が相談に対応。受診可能な医療機関をご案内します。

・電話番号 # 7119 または 011 - 272 - 7119

■こども医療でんわ相談

症状に応じた一般的な対処・助言を看護師等から受けられます。診断・治療はできません。

・受付時間 19 時～翌朝 8 時

・電話番号 # 8000 または 011 - 232 - 1599

■北海道救急医療・広域災害情報システム

緊急時に受診可能な道内の病院を 24 時間（年未年始などの連休も可）検索できます。

・フリーダイヤルは 0120 - 20 - 8699

・携帯電話からは 011 - 221 - 8699

・インターネット検索は <http://www.qq.pref.hokkaido.jp>

休日・夜間の受診先

<休日・昼間>

日曜・祝休日は江別市内内科小児科休日急病当番をご利用ください（※ p.28 町内イベントカレンダー参照）。乳児の場合は一部の医療機関で事前連絡が必要となりますので、ご注意ください。

町のホームページから
でも確認できます→



急病当番医

※医療機関の都合により、変更となる場合があります。最新情報は新聞紙上や救急安心センターさっぽろ、北海道救急医療・広域災害情報システムでご確認ください。

<夜間>

■江別市夜間急病センター **内科** **小児科**

・住所 江別市錦町 14 - 5

・受付時間 18 時 30 分～翌朝 6 時 30 分（年中無休）

・電話番号 011 - 391 - 0022

■勤医協中央病院 **内科**

・住所 札幌市東区東苗穂 5 条 1 丁目 9 - 1

・受付時間 19 時～翌朝 9 時（年中無休）

・電話番号 011 - 782 - 9111

近くの医療機関案内

診療時間は、町のホームページに掲載しています。少し遅い時間に診療している医療機関もありますのでご確認ください。

予防接種（個別）・健診 実施医療機関

ご希望の方は、事前にお申込みください。

医療機関名	電話番号 (札幌市外局番 011)	予防接種				健診
		4 種混合・ 不活化ポリオ・ヒブ・ 水痘・MR・DT	小児肺炎球菌・ B 型肝炎・ロタ	日本脳炎	高齢者 肺炎球菌	特定健診・ 後期高齢者健診・ 肝炎ウイルス検診
勤医協当別診療所	23 - 3010	●		●	●	●
さいわい内科消化器クリニック	27 - 7591				●	●
スウェーデン通り内科循環器科クリニック	25 - 3151	●	●	●	●	●
田園通りさわぎき医院	25 - 2055	●	●	●	●	●
とうべつ内科クリニック	22 - 1313				●	●
とうべつ整形外科	25 - 5040			6 歳～	●	
北海道医療大学病院(札幌市北区)	778 - 7575	●	●	●	●	●

※小児科定期予防接種（子宮頸がん除く）は、江別市内の小児科 6 カ所でも接種可能です。

心の健康を保とう

令和4年10月に厚生労働省から出された自殺総合対策大綱では、コロナ禍において全国的に女性や小中高生の自殺者数が増えている傾向があることがわかりました。町の令和3年の自殺死亡率は38.4（人口10万対）で、全国と比べて2倍以上、ここ10年間で1番高い値でした。特に女性の死亡者数の増加傾向が見られています。自殺は様々な要因が複雑に絡み合っただけで起るものですが、うつ病も要因の一つです。

うつ病のサイン・症状

1日中気分が落ち込んでいる、何をしても楽しめないというような自覚症状が続いている場合、うつ病の可能性がります。原因が思い当たらないことも少なくありません。うつ状態では物事を悪い方に考える傾向や、自分がダメな人間だと感じることもあります。焦りや絶望感から「死にたいほどのつらい気持ち」が現れることもあります。



精神的な症状の前に、体の症状として気づくことも多くあります。食欲がない、頭痛、肩こり、倦怠感、めまい、口が乾く、眠れない等体の不調が続く場合も注意が必要です。

周りの方へのお願い

心が疲れている時は、自分で気づくことや対処できないことがあります。表情が暗い、反応が遅い、仕事の間違いが増える、落ち着きがない、酒の量が増えた等、いつもと違う様子が見られたら、本人はうつ状態で苦しんでいるかもしれません。

身近な人ができる本人へのサポートは、本人のペースを大切にしていつも通りに接すること、話をよく聴くこと、症状が気のせいではないことや薬に頼る方法があることを助言することなどです。

早めの対処が必要です

気になる症状がある時は重症化を防ぐためにも、早めに精神科や心療内科、内科のかかりつけの医師等に受診や相談することをお勧めします。薬物療法の場合、継続して服用する必要があり、すぐに効果が現れにくいこともあります。主治医の指示に従い焦らずに治療を継続する必要があります。

心身の休養が取れるよう環境を整えることも大切です。職場や学校から離れ自宅で過ごすことにより、症状が軽減することもあります。ストレスを感じる環境から離れて過ごすことは、その後の再発予防にもつながります。

▼問合せ 保健福祉課健康推進係（ゆとろ内・☎23-4044）

広告

広告

広告